

伝統文化 子どもたちのいけ花教室

【支援金確定額：60,961円 支援率：50%】

取材日：平成23年（2011年）12月26日

■どのような活動をされていますか？

日本の伝統文化であるいけ花の修得を通じて、伝統を継承することを目的とし、活動を行っています。サークルの会員の技術向上に努めると同時に、サークル内の活動にとどまらず、地域にも花を生ける楽しさを普及させようと、「花フェスタ in ふなばし」や「塚田福祉祭り」等各種イベントに積極的に参加しています。

「花は生けると人になる」と言われるように、生ける人の個性や気持ちが作品に投影されます。いけ花を通して、自分の心と向き合う時間を作ること、心の情操教育にもつながっていると考えています。



いけ花を通して、自分の心と向き合う

■支援金をどのように活用されますか？

行田中学校で、月に一回生花教室を開催しています。いけ花は「季節の先取り」として、花の見頃の少し前に花を生ける慣例があります。教室でもこれに沿って、毎回のテーマを決めています。実際にいけ花を行う前に、花の基礎知識や伝統行事の説明も講義しています。現在部員は20数名で、小学生や先生方もいます。生徒は教室以外にも別の部活動に所属しており、その合間を縫う様にして参加する努力をしています。

支援金は主に教室で使う花材の一部や花器、教科書や参考書など教材費に活用しています。



行田中学校の教室が解放され、小学生も参加しています

■今後の活動の抱負を教えてください。

現在は行田中学校の先生の理解と協力のもと、教室を開催することができています。場の提供だけでなく、活動を近隣の学校に広めるといった理念にも賛同いただき、広報活動にも尽力していただいています。

今後は教育委員会を通じて、教室の開放や講演会などができたらと思っています。学校関係者をはじめ、保護者や生徒、地域住民に伝統文化を継承することの大切さを理解してほしいです。

行田中学校で教室を開催して7年目になるので、同期の卒業生が集まったり、教室にも顔を出したりなど、教室参加者の継続的な交流も計画しています。

～取材を終えて～

教室に通う生徒は、誰かにアドバイスを求めるのではなく、完成形を思い描きながら黙々と作業に熱中しており、その姿がとても印象的でした。内山代表も手取り足取り教えるのではなく、生徒一人ひとりの個性や感性を大事にして、「どう生きたいと思っているのか」引き出すことに取り組んでおり、「見守り過ぎないこと」が技術向上や自主性の発達に必要であると感じました。

華道・武道・書道など道を究める過程で、日本人が重んじてきた礼儀作法は身につけていきます。新しいものばかりを教えるのではなく、伝統に再度目を向け、「受け継いでいくことの意義」を教える教育が推進されるよう、支援を行っていくことが必要であると強く思いました。

■関わり先（連絡担当者）：代表 内山 敦子（うちやま あつこ）

TEL：047-424-5223 E-mail：auchiyama@muf.biglobe.ne.jp